

2026年度入試解説（国語）

3

問一 正解：①

【文章Ⅰ】の「古之君子、過則改之」この「過」は、「あやまち・失敗」という意味で使われています。つまり「過ちがあれば、それを改める」という文です。

- ① 過失：うっかりしたあやまち・失敗。本文の「過（あやまち）」と意味がほぼ同じ。
- ② 通過：「通り過ぎること」。「過」は「通りすぎる」の意味→本文の「あやまち」とは無関係。
- ③ 過激：「程度が行き過ぎていること」。「過」は「行き過ぎる」の意味→これも本文の意味とは違う。
- ④ 過去：「すでに過ぎた時間」。「過」は「時間的に前」という意味→本文とは一致しない

問二 正解：②

問題文「今之君子、過則順之」ここで問われているのは、「順之」をどう読むか・どう取るかです。

○語ごとの意味を確認

過：あやまち

則：～ならば

順：したがう／流される

之：それ（＝自分の過ち）

「過ちがあれば、それにしたがう」

○「順」の意味がポイント

「順」は現代語だと

良い意味：「言うことを聞く」「素直に従う」と思われがちですが、漢文では「逆らわず、そのまま受け入れてしまう」「流れに任せる」という否定的な意味でも使われます。

この文では、古の君子：過ちを改める／今の君子：過ちに順うと対比されているため、「順」は明らかに悪い意味です。

○文全体で確認（対比）

古の君子

過てば改む

過ちは日食・月食のように明らか

民に仰がれる

今の君子

過てば順ふ

過ちをそのままにする

尊敬されない

「順之」は過ちを正当化し、押し通す態度を表しています。

○選択肢の検討

- ① 自分の過ちに人を従わせようとする→「人に従わせる」意味は本文にない×
- ② 自分の過ちをそのまま押し通す→本文の意味と一致○
- ③ 人の意見に従い、過ちを直そうとする→「改める」の意味になってしまう×

- ④ 人の意見に従わず、過ちを正当化する→ 一部近いが、「順」の意味とずれる
（「従わず」は逆）×

問四 正解：日食（や）月食

○語句の確認 日：太陽 月：月 食（シヨク）：欠ける・隠れる

「太陽や月が欠けること」

○具体的に何を指すか。→太陽や月が欠ける現象とは「日食」「月食」

○なぜこのたとえが使われているのか

本文では「古之君子、其過也如日月食。民皆見之。」とあります。日食・月食の特徴は「一時的に欠ける」「誰の目にも明らか」「隠そうとしても隠せない」

→つまりここでは「古の君子の過ちは、はっきり見えるもので、隠さない」という意味になります。

問五

(i) 正解：① (ii) 正解：④

○会話文の狙いを確認

この会話のポイントは3つです。

【文章Ⅰ】は

- ・過ちに対する態度を、古の君子と今の君子で対比している
- ・「改」と「更」という 同じ読みでも意味が違う漢字に注目させている
- ・それを踏まえて、【文章Ⅱ】の意味を正しく読み直す
→古の君子は、「改」＋「更」の両方をしている存在。

(i) X の解説

文の確認「なるほど。では、古の君主は、Xから、人民の尊敬を集めるというわけだ。」

「改」「更」の意味を踏まえた内容が入る。

① 過ちを明らかにし、新たに再出発しようとする。○

「過ちを明らかにする」＝日月の食（隠さない）

「新たに再出発」＝更→ 本文と完全一致

② 過ちを隠蔽し、新しい君主を位に就かせようとする。×→ 本文と正反対

③ 失敗を振り返らず、新しい政策に挑戦しようとする。×→ 「改」が欠けている

④ 自己の至らなさを認め、周囲の人々に協力を求める。× → 良さそうだが、本文に「協力を求める」はない

(ii) Y の解説

【文章Ⅱ】再確認「改めて益なき事は、改めぬをよしとするなり。」

ここでの「改める」は「変更する」「直す」の意味。

意味の整理「改めても何の利益（益）にもならないことは無理に変えない方がよい。」

① 変えることによって新しいことを学べるので大切だ。×→ 本文とは逆

② 直すことで新しくなるなら、すぐに直すべきだ。×→ 条件付きであり、本文より強すぎる

③ 新品にあらためると損をするので、しない方がよい。×→ 「損得」の話ではない

④ あらためても意味がないことは、そのままの方がよい。○→ 本文の意味を最も正確に言い換えている

4

問一

(1) 正解：②

本文の場面「やがて一膳終るとそそくさと立ち上がった。」

この直前では、ひろ子は御飯を「ふうふう吹いて」食べている。→遅刻を強く恐れている。

落ち着いている様子ではなく、急いで次の行動に移ろうとしている場面です。

- ① ゆっくりと落ち着いて→ 文脈と逆×
- ② 急いであわただしく→ 本文の状況にぴったり○
- ③ 静かに気づかれないように→ 「こっそり」という意味になり不適切×
- ④ 怒って勢いよく→ 怒りは表れていない×

(2) 正解：①

本文の場面「遅れた彼女はその日一日を否応なしに休ませられた。」

ここで重要なのは、主語は「工場」側。ひろ子には選択の余地がない、という点です。自分の意思とは関係なく、強制的に休まされた、という意味になります。

- ① 嫌がっても無理やり→ 「否応なし」の意味そのもの○
- ② 自分の意志で喜んで→ 正反対×
- ③ 事情を知らずにうっかりと→ 意味がずれる×
- ④ 特別な事情があったので→ 理由説明になってしまう×

問二 正解：研ぎ立ての包丁のような

この設問は、朝の空気と光が「冷たく鋭く感じられる」様子を表した直喩表現を本文中から探す問題です。

本文では、ひろ子が家を出て工場へ向かう場面で、「外は研ぎ立ての包丁のような夜明けの明かるさだ」と表現されています。

「研ぎ立ての包丁」は、「冷たく」「鋭く」「触れると切れそうな危うさ」を強く連想させるものであり、これを夜明けの光にたとえることで、冬の朝の空気と光が、やさしいものではなく、身体や心に突き刺さるように厳しいものであることを印象づけています。

問三

X 正解：③

Xの場面でひろ子は、工場に遅刻し、鉄戸が閉まっているのを見て、泣きながら弁当箱を抱え、人通りが多くなっていく中を歩いている。

本文には、「彼女はベソをかいていた。人通りが多くなっていった。」とあり、人目のある往来を、遅刻した後ろめたさを抱えて通り抜けていく状況であることが分かる。

このときのひろ子は、堂々と歩ける気持ちではなく、できることなら人に見られたくない、小さく身を縮めるような心理状態にある。

そのため、人目を避けるように動く様子を表す③「コソコソと」が最も適切です。

Y 正解：④

Yの文は、「ひろ子は次の日から Y 通った。」とあり、学校をあきらめ、生活のために工場へ通い始めた日々をまとめて表している。

ここでのひろ子は、自分の希望で働き始めたわけではなく、学校への思いを断ち切れないうまま、気力を失った状態で毎日を過ごしている。

④「しょぼしょぼと」は、元気がなく、意気消沈した様子を表す語であり、夢を断たれた十三歳の少女の心理を的確に表している。

したがって、Yには④「しょぼしょぼと」が最もふさわしい。

問四 正解：①

設問では、「その日彼女は電車の中で遅れそうなことを感づいた」のはなぜかを問うています。

本文には、「身ぎれいな女などが乗り始めていて労働者風の姿が消えていた」とあります。これは、通勤・通学の時間帯がすでに進み、労働者が乗る早朝の時間帯ではなくなっていることを示しています。ひろ子は、電車の時刻表を見たわけでも、誰かに遅れを告げられたわけでもありません。しかし、電車の中の人の様子がいつもと違うことから、時間が過ぎてしまったことを直感的に感じ取ったのです。このように、ひろ子が遅れそうだと感じた理由は、電車内にいる人々の様子が、いつもの早朝とは違っていたからです。したがって、正しい答えは① 電車の中で見かける人がいつもと違ったから。となります。

問五 正解：鋼鉄の鉄戸

設問では、「ひろ子は見落とすまいと、その一つ一つの入口を見つめた」とありますが、ひろ子が入口の何を確認しようとしたのかを、本文中から五字で抜き出す問題です。

この場面の直後、本文には、「だが彼女の前には鋼鉄の鉄戸がいっぱいに下りていた」と書かれています。

ひろ子は、工場に間に合ったかどうかを確かめるため、自分の工場の入口がまだ開いているか、それとも閉められてしまったかを必死に見ていました。つまり、ひろ子が確認しようとしていたのは、入口そのものではなく、入口に下ろされた「鋼鉄の鉄戸」が下りているかどうかです。

そのため、本文中から五字で抜き出す答えとして最も適切なのは、「鋼鉄の鉄戸」となります。

この設問は、「見つめた対象」ではなく「何を確認しようとしたか」という設問の聞き方の違いを正確に読み取れるかどうかを問う問題です。

問六 正解：④

設問の文「押されるように何かがかけまわるような嫌な腹痛を覚えた」は、ひろ子の身体の状態を述べているように見えますが、実際には強い不安や緊張による心情を表した表現です。

この場面でひろ子は、工場の入口を必死に探し、遅刻してしまうかもしれないと感じ、門限が七時であることを思い出しています。

遅刻すると、その日は一日分の賃金がもらえず、強制的に休まされることが、直前の説明で示されています。そのためひろ子は、今日の働きが無駄になるかもしれないという切実な不安を抱えています。この不安や焦りが、「何かがかけまわるような腹痛」という形で、身体感覚として表現されているのです。

したがって、この表現が表している心情として最も適切なのは、④ 日当がもらえないかもしれない不安と心配。となります。

※この設問は、「腹痛＝病気」と短絡せず、直前の状況説明（遅刻＝無収入）と結びつけて読むことがポイントです。

問七 正解：③

設問では、「親しげな顔付き」とはどのような様子かを問うています。この表現は、電車の中で席をあけてくれた小父さんが、ひろ子に声をかける場面で使われています。小父さんは、「感心だね、ねえちゃん」「どこまで行くんだい」「お父ちゃんはどうしてんだい」と、ひろ子の身の上を気づかうように話しかけています。

これは、興味本位や非難の態度ではなく、同じ労働者として、また親の立場に近い目線で心配している様子を表しています。

さらに本文では、「彼らにとってはそれが自分達自身のことであり、彼女の姿は彼らの子供達の姿であった」とあり、周囲の大人たちも、ひろ子を自分たちや自分の子どもと重ね合わせて見ていることが示されています。

したがって、「親しげな顔付き」とは、自分と同じような境遇にあるひろ子に共感し、いたわる気持ちを表した様子を意味しています。

よって、正しい答えは、③ 自分と同じような境遇にあるひろ子たちへの共感の様子。となります。

問八 正解：①

設問では、「ひろ子はうつむいてしまい、黙ってむやみに御飯を口の中へつめこんだ」という描写について、その行動の理由として最も適切な説明を選ぶ問題です。

この場面でひろ子は、父親から「キャラメル工場へ行ってみるか」と突然言われます。これは、学校に通い続けることができなくなるかもしれないことを意味しており、十三歳のひろ子にとっては非常に大きな衝撃でした。直後に、「そう言いかけるのと一緒に涙が出てきた」とあることから、ひろ子は強い悲しみや戸惑いを感じ、話そうとしても感情があふれてしまい、言葉にできない状態であったことが分かります。そのため、ひろ子は気持ちを悟られないように、また涙をこらえるために、黙って無理にご飯を食べ続けたのです。

したがって、この行動の説明として最も適切なのは、① あまりの衝撃で、何かを話そうとすると涙が出てきてしまうので、黙っていることで悲しみに耐えようとしている。となります。

問九 正解：②

設問では、「父親は上機嫌だった」理由を本文から読み取る問題です。

父親は、ひろ子をキャラメル工場に連れて行き、事務員との話が成立したあと、蕎麦屋で酒を飲みながら上機嫌になります。しかし本文では、父親がこの工場を選んだ理由について、「その工場の名がいくらか世間へ知れていたのも、そこへ気が向いたに過ぎなかった」と述べられています。

この一文から、父親は、ひろ子の適性や負担、通勤の大変さ、学校をやめることの重さなどを十分に考えたわけではなく、「名の通った工場に娘を入れた」という事実そのものに価値を見だしていたことが分かります。つまり父親が上機嫌だったのは、生活の見通しが立ったからではなく、世間体や自分の面目が保たれたと感じたからです。

したがって、正しい答えは、②「ひろ子」が名の知れた工場で働くことで、娘を働かせる自分の面目も保てるから。となります。

問十 正解：②

設問では、「ひろ子はそれが自分の力の足りない女のように思われた」とありますが、なぜひろ子がかかるように感じたのかを読み取る問題です。

この場面では、工場の賃金制度が「日給制」から「歩合制（一罐七銭）」に変更されます。仕事に慣れた娘たちは収入を増やせましたが、多くの娘たちは以前と同じ賃金を得るために、さらに無理をしなければならなくなりました。本文には、「ひろ子などは三分の一に値下げされた」とあり、ひろ子は精一杯働いているにもかかわらず、収入が大きく減ってしまったことが示されています。

その結果、父親から「止めにしたら」「毎日電車賃を引けや残りやしない」と言われ、自分の働きが家計の役に立っていないかのように扱われます。

この状況の中でひろ子は、制度の問題や雇い主の都合ではなく、それを十分にこなせない自分自身の力不足のせいだと感じてしまいます。

したがって、「自分の力の足りない女のように思われた」とは、精一杯働いても収入が少なく、自分が情けなく思えた気持ちを表しています。

よって、正しい答えは、② 精一杯働いても収入が少なく、自分が情けなく思えるから。となります。

問十一

(1) 正解：①

設問では、「この橋と川は、心のよりどころでもあった」とありますが、なぜそう言えるのかを読み取る問題です。

記事の中で佐多稲子は、電車賃がなく、暗い早朝から吾妻橋を歩いて工場へ通ったこと。叔父の死や関東大震災といった、人生のつらい局面でも吾妻橋を渡ったことを回想しています。

特に、「吾妻橋を渡る少女は、いつも一生懸命涙をこらえて、走るように歩いた」という記述から、この橋はつらい現実から逃げる場所ではなく、必死に生き抜くために通った場所であったことが分かります。そのため吾妻橋と隅田川は、苦しい生活の記憶と結びついた場所であると同時に、自分が懸命に生きてきた証を思い出させ、心が折れそうなときに自分を支えてくれる存在となっていたのです。

したがって、最も適切な答えは、① 貧窮生活の中で涙をこらえて橋を渡りながら懸命に働きに向かった日々の記憶としての場所であり、つらいときほど必死に生きてきた自分を思い出し、心を支えてくれる場所だったから。となります。

(2) 正解：③

設問では、『キャラメル工場から』と記事の内容から分かる「叔父」の人物像として最も適切なものを選ぶ問題です。

記事では、叔父について、佐多稲子に文学の世界を教えた人物であること。吾妻橋で「都鳥」の話語り、文学的な感性を伝えたこと。その存在が、少女にとって精神的な支えであったことが述べられています。

また、『キャラメル工場から』においても、貧しい生活の中で、「叔父」は病気のため床に伏しながらもひろ子の心に寄り添う存在だったことが描かれています。

これらを踏まえると、叔父は単なる知識人ではなく、貧しい生活の中で少女の心に光を与え、精神的に支えた人物であったと考えられます。

したがって、最も適切なのは、③ ひろ子に文学の世界を教え、時には守ろうとする、貧しい生活の中で少女の心に光を与えた優しい人物。となります。

5

問二 正解：④

空欄Ⅰの前に、「すぐれたミステリー作家はこの仕掛けの使い方が非常にうまい」とあり、その後に「ミステリーを読み慣れた熟練した読者も同じように、『レッド・ヘリング』を予期して」いるという内容が書かれているので、当然類推出来る内容の事柄を述べる時の「もちろん」が入ります。

空欄Ⅱは、読者が「レッド・ヘリング」を警戒しながら読んでいくが、後半になると出てこないという内容が書かれているので、逆接でつなぎます。

空欄Ⅲの前には、物語後半に「レッド・ヘリング」が出なくなることが書かれ、空欄の後には読み慣れた読者にはそれがわかるという内容が書かれているので、順接でつなぎます。

問三 正解：本の厚み

傍線部の後に、友人との話の中で電子書籍が読めない理由として本の厚みがないということを挙げているので、そこが答えになります。

問四 正解：①

本文には、「すぐれたミステリー作家はこの仕掛けの使い方が非常にうまい」とはありますが、選択肢①にある「多く用いられている」という記述はありません。よって誤っているのは①です。

問七 正解：③

空欄の前に、「一冊の本を読み終えるというのは、そういうふうに『私が読み終えるのを待っていた私』ともう一度出会うことなんです」とあります。電子書籍ではこの紙の本とは異なっているということを述べているので、「私が読み終えるのを待っていた私」の居場所がないということを入りたい箇所です。よって、「私が読み終えるのを待っていた私」と同じ内容である③が正答になります。

問八 正解：④

傍線部の前に、「リテラシーというものは」という主語があるので、リテラシーについて述べている箇所です。その後に「リテラシーというものは、自分では自分が何をしているのかわからないままに行使されている能力なんです」という説明があります。また、傍線部の前の段落には「頁数をチェックしながら、あと残り何頁だからそろそろ読み方を変えないといけないとか、そういう面倒なことは僕たちはできない」「主題的には意識されないシグナルに反応しながら、無意識的に自分の読み方を微調整している」という記述があるので、それに合致している④が正答です。

問九 正解：④

傍線部の後に、「全体のプログラムの中で腹具合を按分しながら食べるから美味しい」という記述があります。①のように「作った人の情報を事前に調査」することや、②のように「材料や作られた背景を想像すること」や、③のように「小さい皿で小分けに盛り付けられたものを食べる方が満腹感を得やすい」ことが料理の美味しさを担保しているわけではありません。よって筆者の主張を詳しく説明した④が正答になります。

問十 正解：④

最後の段落では、本を読むときのわくわく感について「ラーメンを食べるときに、つるつる食べ進むにつれて、食欲がしだいに満たされ、最後の一口をごくりと嚥下するとき空腹感がぴたりと収まるように計画しながら食べるときと同じ」だと書いていま

す。つまり読書と食事は似たようなものだとして認識しているということです。また、その楽しさは終わりを見据えることから生まれるということが書かれていますので、④が正答です。

問十一 正解：①

本文には、「無意識的に自分の読み方を微調整している」とあるので、生徒Bの「厚い本を持ったときは、気合いを入れて読もうという気持ちになる」というのは異なります。また、「ページをチェックしながら、あと残り何頁だからそろそろ読み方を変えないといけないとか、そういう面倒なことは僕たちはできない」という記述があるので、生徒Cの「読み方は変えられる」というのは合致しません。さらに、生徒Dの「紙の本にも電子書籍にも、それぞれの良さがあって、目的で使い分けると良い」というのは本文に記述がないので不適です。以上から、選択肢①の生徒Aの話が本文と合致していることとなります。